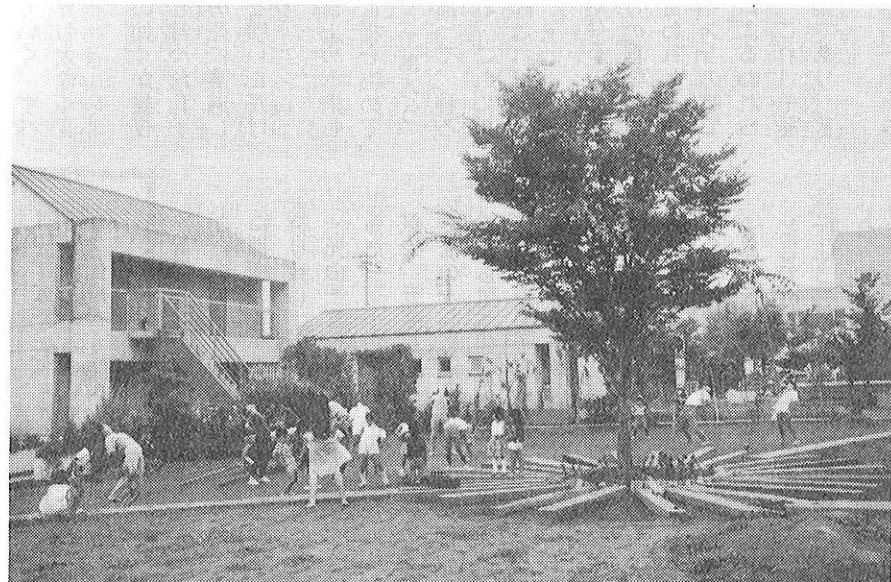


光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



謹
賀
新
年

社会福祉法人 光の子どもの家

不滅の言葉（マタイによる福音書二四・三五）

理事長 福島 勲

ゲーテはファストの中で「あらすじもがなの神学」と言つた。

ある集会ですすめをきいていたら、神学などより祈りが大切だと祈りを強調した。たしかに祈りの不足は反省させられる。

しかし、一方、果たしてどれだけ神学的な学びをしたかと思ふと、不勉強を恥じざるを得ない。

古閑裕而という作曲家は五千にものぼる曲を作つた。それぞれ情感にあふれる旋律で人の心を打ち訴えたのである。

ひるがえつて自分の説教に思ひをいたすと、話が固定化し、狭い範囲でマンネリ化する。かくて加えて年をとるにつれ繰り返し、新鮮味に欠け魅力を失う。

靈の枯渴と共に勉強の不足を隠しようもなかつた。

もつと幅広い、信仰に裏打ちされた知的で、神学的に深みがあり魅力ある説教をすることのできなかつたことの悔いが残つて、暗い思いがする。

しかし、学を軽い、人気を博すとして、聖書から逸脱して「違った教えや、空論」（第一テモテ・一・三、六）に陥ることは許されない。たゞ話が下手でもまた受けなくとも、眞実の福音を語ることこそ使命である。

古来しばしば異端なるものが起つた。十二世紀半ばにブルガリヤや南フランスなど広範囲に隆盛を極めた、カタリ派などは、キリストの十字架は重要でない。教えこそが人を救うのだ

と説いた。

異端のギリシャ語、ハイレシスという字は、選択するの意であり、分離、分裂、党派といつた意味に展開する。

世はまさに何でも自由に選択される。従来、異端は可能性であったが、現代は必然性であると学者は言つ。（P・バーガ、異端の時代）独自性が重んじられ、考えることも語ることも、行動も独創的で、伝統とか信条

とか全く無視されていく。すべては移り動き、世界も大きく変動する。

「逝くことは斯の如くか昼夜を含（お）かず」と言つた孔子も、おそらく弟子の死に遭遇して、生のはかなさを嘆いただけではなかつたろう。

流れに佇んで堰き止める術もないつろいゆく世相を眺めて、詠嘆久しということであろう。万物流転の中にあつて、移るいやかぬ真理に触れ、これに捕らえられることが起これば、無限のさいわいである。

イエスは天地は滅びるであろう。しかし、わたしの言葉は滅びることがないと言われた。キリストの言葉はキリストの業であり、十字架の死によるわれら罪人の救いである。これこそ絶対不變の神の愛の業であり、言葉である。

この真理に触れてこそ、新しい喜びの涙が溢れ、感激の新たな讃美となり、新しい希望に満たされた閉鎖的で独善的な自我が打碎かれて、隣人への愛となつて、大きく羽搏くのである。

児童養護とキリスト教

施設長 今関 公雄

新年あけましておめでとうございます。皆様の本年の歩の上に神様の豊かな祝福を心よりお祈り致します。

光の子どもどもの家でも子どもたち三十名と職員十七名が元気で、五度目の新春を皆様のお支えのうちに迎えましたことを感謝してご報告申し上げます。

最年長の子どもたちが中学二年生となり、中学生四名、小学生二十名、幼稚園児六名となります。いよいよ、思春期問題や教科学習の比重も高まります。この年も家庭的に恵まれない子どもたちが、神の子、光の子としての心身の健やかな成長を祈り、その養育に精励する思いを一同で新たにしております。

さて、十年一仕事の中間点に当たり、当施設における児童養護の基本精神を才覚人しておきます。その要旨は、おおよそ次のように表現されます。

「光の子どもの家の成立の基盤である最も大きな、一つひとつ

あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見たが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。」すると、王は答えて言うであります。「あなたがたによく言つておく。わたしにしたのである」(マタイ・二五・三七～四〇)

これらの核心は、迷い出た百四十九匹を山に残しておいて、その迷いでいる羊を捜しにいくつか掲げておきます。

「ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷いでいる羊を捜しに出てかけないであろうか。もし

うに、これら的小さい者の一人が減ることは、天にいますあたりに喜ぶであろう。そのようないい」(マタイ・十八・十二)

「主よ、いつ、わたしたちは、この聖書のみ言葉を実行できなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりもむしろその一匹のために喜ぶであろう。そのようないい」(マタイ・十八・十二)

「主よ、いつ、わたしたちは、この聖書のみ言葉を実行できなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりもむしろその一匹のために喜ぶであろう。そのようないい」(マタイ・十八・十二)

「主よ、いつ、わたしたちは、この聖書のみ言葉を実行できなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりもむしろその一匹のために喜ぶであろう。そのようないい」(マタイ・十八・十二)

芭蕉の「水」

伊東 通明 (俳誌「白桃」主宰)

年があらたまると明らかに日脚が伸びてくる。十二月の冬至を境に、米一粒の長さで日が長くなると教えてきたのは、われわれの祖たちであった。私は母から聞いたし、母はその母から教えられたものであつたろう。明るくなることは幸せの感覚とも比例する。

日本では日が短くなるにつれて、夜が長くなつてゆく。加えて暗く寒くなれば、人の心に陰を与えてゆくのも必定だろう。私が末期の母から聞いた言葉らしい言葉は「夜が長いねえ」と、いう一言であった。

今、私は「水る水」と言うことを考へて、寒さのために水が水になつたり、水分を含んだものが固くなつたりする、その「水る」のことである。

「水と炭」二つのものが非常に相違していること。

「水に座す」解けて下に落ちやすい氷の上に座る意で、きわめて危険な地位。
「氷に鎌め水に描く」氷に彫刻してもすぐに溶けて形がなくなる意で、勞しても功がないこと。
「水を歩む」薄い氷の上を歩む意で、危険を冒すこと。薄氷を踏むともいう。

「氷の地獄」八寒地獄。
「氷の闇」氷が張つて通ることのできない場所。
「氷の闇」寒さが身にしみて堪えがたい寝室。
等々、どれをとつても不安で寒く、きわめて居心地が悪い。できるところなら、避けて通りたいたいものばかりである。

それというのも、芭蕉の「水る(水)」と表現された作品を読んでいたからである。
ここに、手許の芭蕉句集から引いてみると、

深川冬夜の感
櫓の声波うつて腸水^{はら}夜や
なみだ(武蔵曲)

茅舎買^フレ冰^ヲ
(虚栗)

二月堂に籠もりて
水とりや氷の僧の沓の音

(甲子吟行)
冬の日や馬上に氷る影法師

芹燃やすそわの田井の初水
(其便)
(笈日記)
いきながら一つに冰る海鼠かな
(続別座敷)

の「水とりや」以降の作品はよく知られているが、なぜか芭蕉の過渡期にあたる「水苦く」の作に、しきりに心が動く。

芭蕉の博覽強記は夙に知られているが、「僕鼠が咽を」とつて、山本健吉氏の教えると、「莊子」逍遙遊篇に「鵠鴨深林に巢^クフモ一枝ニ過ギズ。」とあるに拠るという。

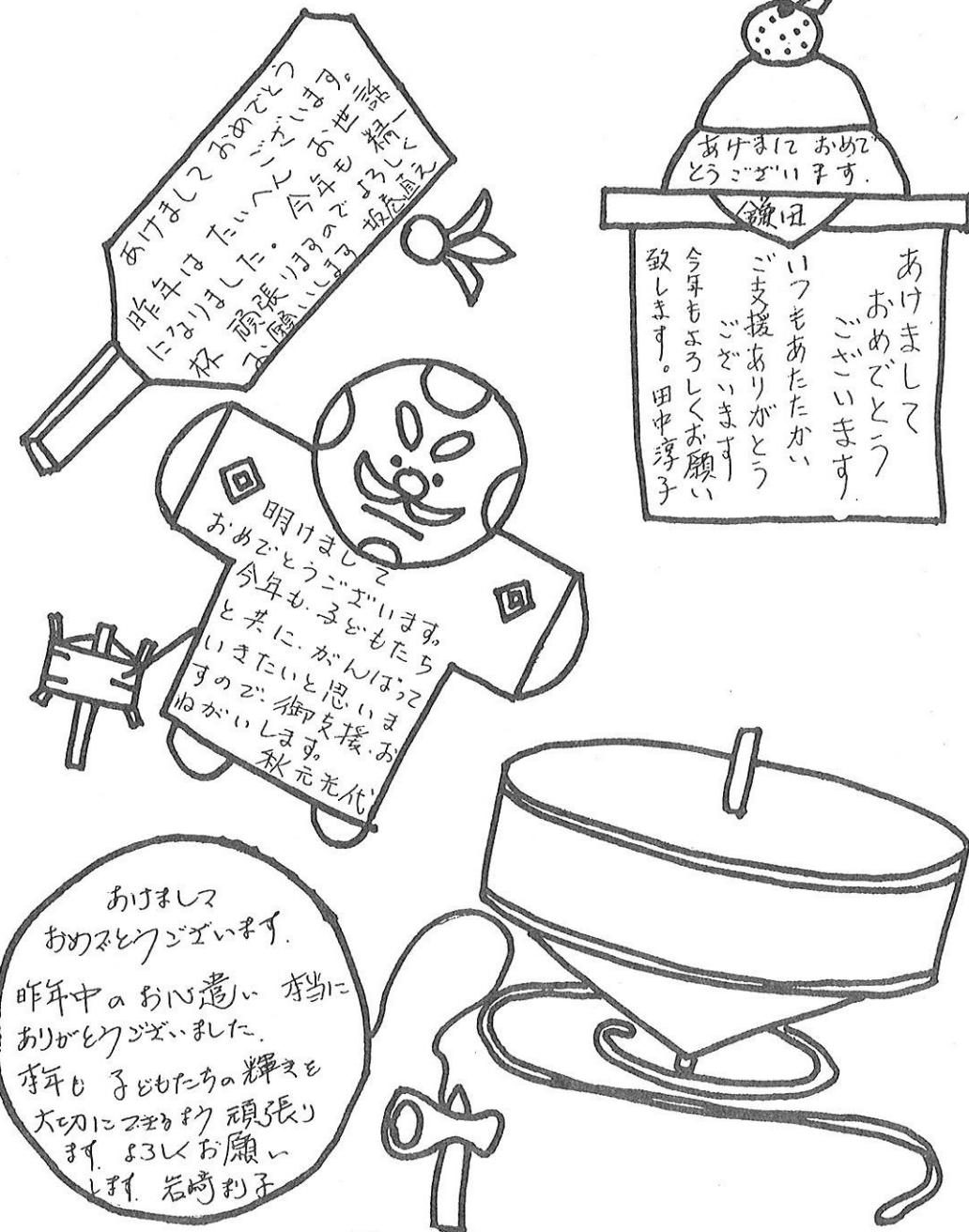
つまり、どぶ鼠が大河の水を飲んでみたところで、小さな腹を満たすに過ぎない、と言う意である。また、ささやかな住居を「巢林一枝」といい、少しの欲望を「僕鼠の望」という。そ

こで前書きの「茅舎」は深川の芭蕉庵。そこでは生活必需の水を買つていたのである。深川の水質が悪かつたに相違ない。そうすると、私は河の水を飲む僕鼠のように少しの水が欲しいだけであるが、それも自由には得られず、買って飲んでいるのに、寒中ではそれも水り、割つて口に含めば苦い味わいで、この僕鼠のような私の咽喉を潤すばかりだーというほどの意である。

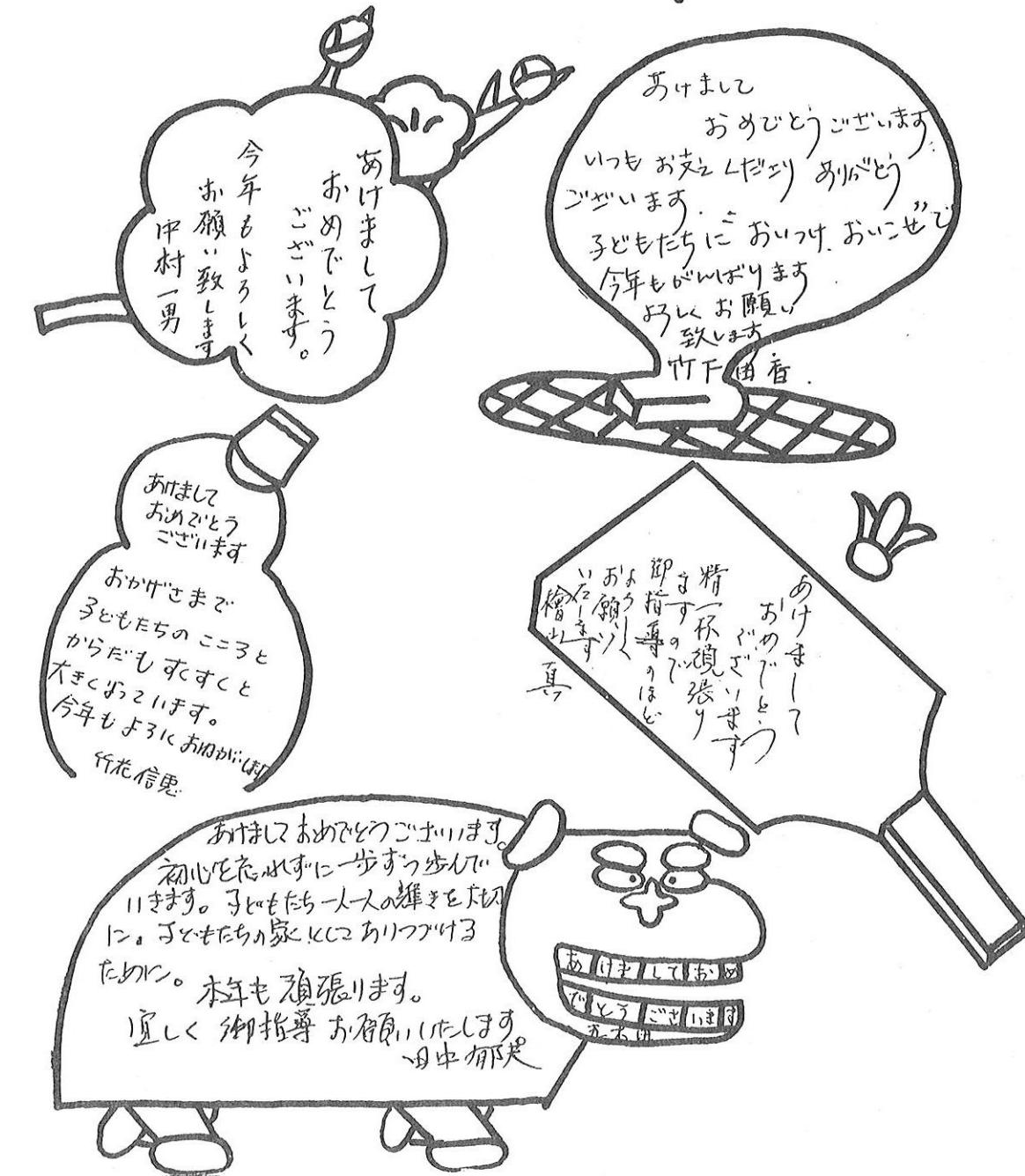
それにしても「水苦し」である。深夜の目覚め、さむざむとした思いによろよろと起き上がる、水瓶に張つた「氷」を割つて噛むとき「苦し」の思いは、芭蕉の心情を正しく語つてよい。

現代では物理的な「水る」寒さ、冷たさは防ぎようがあつても、耐えきれないのは、心が「水る」ことではなかろうか。

謹賀



新年



暮らしの風景

石毛 照子

「まだ夜？月が出ているよ、ホラ！」バジヤマの子が窓の空を見ながら替えを始めます。利根川からの冷たい風の中を人々道草をしながら四十分以上をかけて登校する子どもたの朝はそんな時間に始まります。

通学の様子を知りたくて一緒に歩き、思いを超えた子どもたちのガンバリに気づきました。歩き始めると手足は氷になり、耳はちぎれるように痛むのです。

「サンタさんは今年何をプレゼントしてくれるかなー」「ペジエントではマリアやりたいな」などと云々

「お父さんが大変なぐあせが引
れるから偉いぞ」と讃め励まさ
れ、照れ笑いの鷹文君です。

二月に一度は来てくれていた
お父さんがバツツリ消息が途絶
えてもう一年をはるかに過ぎて
しまいました。それからほぼ毎
月、私と鷹文君との楽しいデー
トが続いています。先月は筑波
山の近くの迷路やアスレティッ
クでの数時間、充満したエネル
ギーを発散し、帰る車中で筑波

のを見ては、当分そんな日は来る
そうもない、やはり寂しくも
ホツとしたりもしています。
おやすみのお祈りをすると一
番に「お話しして」というのも應
文君で、話を半分もしないうち

されるとは思いませんが、励みにならない通知表をどう活用すればいいのか迷ってしまいます。そして、いつの間にか私も通知表の評価で子どもを見てしまっていることにぞっとするのです。

鷹文、今年こそ素晴らしい年にするためにはがんばろうね。子どもらしさを大事にしながら、もうひとつ前へ進もう！本来的な評価から目を離さないで・・・

ます今年も皆様お掛けで健房
で明るい年をお迎えのこととお
慶び申し上げます。また、昨年
同様子どもたちへの暖かいお心
とお励ましをお願い致します。
子どもたちの大きな成長を願
いながら、私も少しでもよりよ
い仕事が出来ますよう、思いを
新たに、頑張りたいと思います

佐藤家で今年家に帰れない子どもは三人しかおりません。そのうちの前社兄妹にはお母さんが遠くから来て三と四日一緒に泊まってくれます。

山を見て、登って行こう。まだ暗くなつていなかつたら……」
その勢いに圧されてつい「今度にしよう、そう、お正月がいいでしよう・ね・」と大変な約束をしてしまい、「うん、それならいいや、お正月きっとだよ」と楽しそうな顔をします。
「ねえ、誕生日のプレゼント何がほしい?」とささやくと、「か・た・な」「一番ほしい物だよ」と確かめるように言うと、「刀がほしい!」と強く言います。それから毎日誰もいなくなつて、「ねえ、ちが、いつに寝忘れたのも鷹文君ですか、一年生の時、初めて教科の評価のついた通知表を持つて「一がある子はバカなんだつて!」と言つて駆け込んで来ました。

「そんなことないよ、それは、先生と鷹文君がもつと頑張ろうって言う印なんだよ」と言うと、「ちがうもん、だつて先生がそう言つたんだもん!」「そんなことないでしょ、バカなんて言う筈ないでしょ。鷹文君お利口だもの」「ちがうもん、オレバカだもん!」・延々とやりとりしながら、やがてそのことを

1990年1月1日 第 28 号

のなかで考えて、少しどきりとおばあちゃんの家へ向かう。すると駅からタクシーで来ました。おばあちゃんの家には、もう長い間行っていなかったからです。

駅からタクシーで行きました。おばあちゃんの家は、ずっと前と同じところにありました。とてもなつかしい気がしました。

「こんにちわ！」と音うど、おばあちゃんが出てきて、「むつちゃん来たんか、ほれ、あがれ」と言いました。ぼくは、顔を下に向けたままで上がりまし

しろい事に気がつきました。聞いていて、おもしろい事が話していると途中でおばあちゃんが話はじめ、二人でいつぶんにしゃべるので。おばあちゃんがしやべるとおじいちゃんはもつと大きい声で話しだし、おじいちゃんが話していると、まるでじやまをするようにおばあちゃんが割り込むのです。最初はけんかでもしているのかと心配しましたが、だだ、二人ともおしゃべりなだけでした。

した。ぼくはあまり肉が好きで
ないので、ぼくが大好きなラー
メンとおいしいおかずも作つて
くれました。三人で食べたので
いつもよりももつとおいしいラ
ーメンでした。

テレビを見てから、三人で一
緒に寝ました。ふとんは、おば
あちゃんが敷いてくれました。
ふとんぐらいい自分で敷けるので
すが、何となくうれしくなりま
した。電気を消して寝ました。

迎えにきて、またおしゃべりが
はじまりました。そのおしゃべり
にお正月の話もしていました。
氣をつけて聞いていると、おじ
いちゃんは「考えておく」と言
つっていました。

今度の冬休みには、また行き
たいです。

虹の国から

6年 山形 瞳男

たおはあせやんがあんまりし
ばあちゃんに「お茶をいれてこ
よべるので、おじいちやんはお
い」といました。

いこどり逃げ恥しさじみだ
朝、目を覚ますと、おじいちゃんはもう起きてテレビを見ていました。おばあちゃんはご飯の支度をしていました。ぼくも起きようとしたら「まだ寝ていい」とおじいちゃんが止めた。



七月二十四日 朝日を覚ますと降
が布団の中から、「信恵さんお
誕生日おめでとう!」とハッキ
リ言つてくれた、期待していな
かつただけに嬉しかった。そん
な思いを「ありがとう!」と抱
きしめて伝えた。

八月一日 宿題のうち絵日記を
やる。これには他児の数倍の時
間と対応が必要だ。全く絵を書
こうとしない。ものすごい苦手
意識を持つてしまつている。せ
つかく書いても黒でグチヤグチ

八月十一日 登校日。担任教師
より電話で「海の絵」を持つ
てきたが、黒でグチャグチャに
してあり、とてもよく描けてい
た。

からちかづいてくる。」などと
なかなかの「観察眼」だと思う。
(ケース記録の抄録)
隆の自立へのへの関わりに必
要な力の量も質も他の子どもの

係が悪化し、薩夫が他の人と結婚をやり直したいと言つたとき、祖父母がたいして強い反対をしなかつたのは、隆にとつては不運の始まりであつただろう。

幼稚園への送り迎えや子どもへの関わりのほとんどを父親がするようになつていくのは、路子の勤務のせいばかりではなかつたようである。大人の関係が子どもの成長に大きな決定的な影響を持つことを隆は告発して私たちに迫る。（この項つづく）

自立
その八
入野隆の場合

養護メモ

ます。これまでのお支えとお励ましを心から感謝致します。
今年も「子どものための子どもの施設」にしていくための、取り組みを更に推し進めていく決意を、新たにしております。
変わらないご支援とお引き立てをお願いします。

一枚もない。〈一学期〉が見事に映し出されている。「どうやつて書くの?」「何を書くの?」とたくさん聞くので、「○○でもいいし○○もいいね。○○はどう?」などたくさんのアドバイスに、再び応答は「なに書くの?」となる。それでも軽井沢

つたのだろう。この絵はよく描けていたのが例によつて終わるところにグチャグチャにしてしまひ、近郊の絵の展覧会では上位入選の常連である鎌田さんに頼んで、隆と一緒に手直ししていくだけで出せる状態までこぎつけたものだつた。今度は絵の具

して大人や周りの者に対応していくのだろうか。そうではなく、最も痛んでいるのは隆自身であることは状況から自明である。

何よりも、子どもの成長について重要な最も安定し、そこにいることに誇を持ち、愛されて育つべき「家庭」「家族」の環

1990年1月1日 第 28 号

厳しい寒さも何のその高雄君
は毎朝マラソンをしています。
お花が咲く春になるといよい
よ小学校入学です。そうなると
朝七時に家を出て二km余りを歩
いて通います。それに備えて一
緒に入学する多歌舞ちゃん、誼
絵ちゃんの三人で走ります。ど
んなに眠くとも「さあ、走ろう
よーいくぞ!」という坂巻さん
の声がかかると、ガバッと起き
上がり手早く支度して、まだ薄
暗い外に飛び出して行きます。
早起きの習慣がもう出来つづあ
りますし、学校生活に必要な体
力も春まで待たずに獲得できそ
うです。

幼稚園でも硬筆習字を練習し
ていて、夏には、まだ自分の名
前さえきちんと書けなかつたの
に、今ではひらがなは大丈夫で
す。大好きなパパに手紙も書き
守つて下さいますように。

とても可愛らしい文字です。
今は専ら $\textcircled{○} + \triangle = ?$ と足し算や引き算の問題を私に出してきます。「8でしよう」と指を使つて計算をして答を出しています。得意そうです。時には、「十千万は?」と自分で知つてゐる最大の数で問題を出したりします。なかなか正確で早い計算力に思わず期待してしまいます。TVのアニメを見ていて「贅いつてなあに?」と尋ねます。咄嗟のことにくちばくことと思ひこんで「すぐ傍のこと」と言つてしまい忙しさにかまけてそのままにしてしまつたりしてしまいます。また、「ガラスつて何から作られるの?」と聞かれ、面倒になり「ガラスの素にお湯をいれて三分たてば出来るの」と言い残して次の仕事を片付けに急いでしまつたりもします。さすがにこれはいけないと訂正しましたが、ともかく知りで「ほんとはねどなんだよ

ある時は、赤ちゃんはどこか
ら生まれてくるのかと、突然言
われてあわててしまい「赤ちゃん
んは頭から生まれるんだよ」な
どと、とんでもないことをいつ
つもいました。すると「じや
頭を切つてそこから生まれてく
るのかな」といふかります。
本当に純粹に、ただ不思議に思
つて尋ねているのです。それな
のに私はなんともずるい大人の
やり方で逃げていたのでした。
「お母さんのお腹には赤ちゃん
を育てるお部屋があつて、生ま
れるときには秘密のトンネルが
開いてそこからオギヤアと生ま
れて来るんだよ。そのときお母
さんはとても大変なんだよ。お
腹の中で赤ちゃんを育てたり、
秘密のトンネルが出来たりする
とともに苦しいし痛いんだよ、
でもね、お母さんは、赤ちゃん
が大好きだから我慢できるんだ
よ。」と不十分でも一生懸命お
話すると「じゃ、ボクもお母さ

「学校へ行くための準備」は高雄君たちにとつて決して嫌なことではなく、誇らしくも喜ばしい、また、驚くべき感動的なことの連続なのです。

「ボク、ここまで一年生なんだよ。」と自分の目のあたりに手をやつて得意そうな顔をする高雄君です。頭のてっぺんまで一年生になつたら、それこそ立派な一年生になるのは間違いありません。

学校にいく日を熱っぽい思いで期待している子どもたちです。素敵な思い出になれるような幼稚園の最後の時を大切に過ごせるように出来るだけ心を配り励ましながら、来るべき小学校での素晴らしい仲間達と、暖かい大きな心で受けとめてください。先生を祈るような思いで、高雄君と一緒に待つてあります。

輝きのかたち

1

池田
祐子

的欲求も旺盛になってきて、年少のエジソンのような質問攻めにはタジタジで、なんともいい加減な受け答えをしてしまいます。だからそうやつて生まれたのかあ」と嬉しそうです。高雄君は体の神秘や、世界の不思議にも感じ入り共震し合う心も育ちつつあるのです。

んからそうやつて生まれたのか
あ」と嬉しそうです。
高雄君は体の神秘や、世界の不
思議にも感じ入り共震し合う心
も育ちつつあるのです。

日誌抄

十月十六日
十二月五日

- 十月十六日 東京YWCA学院より来訪して見学。
- 十七日 ピエロさんパンを沢山。
- 十八日 つば寿司さん、栗橋ジャーナルよりお志を感謝。
- 十九日 遠距離家庭訪問開始。
- 二五日 檜山真、来春の採用内定し、実習開始。
- 三十日 江森理容店さん散髪のご奉仕。ありがとう。
- 十一月三日 第二十回理事会。
- 補正予算案を承認。
- ・抜けるような青空と暖かい日和に恵まれた午後の園庭に、お世話になつた百八十余りの人々の笑顔が満ち溢れ、第五回感謝の集いが。福島歎牧師の司式で感謝礼拝を捧げたあと、祝会となり、設立準備の最初から自らを忘れて心を碎きご尽力下さった梅沢三保氏に感謝状をさしあげ、職員たちが心を込めた料理を囲んで歓談の時を過ごした。この日ために春日部教会の青年たちを始め多くの人たちのお手
- 二四日 東松山市児童民生委員婦人部來訪してお励ましを。恒例の大根劍友会との蕎麦会。熱烈ご支援の針谷氏の手打ち蕎麦と鈴木先生の郷里宮城からのイキのいいお魚で。

伝いや、多くの方々より沢山のお志しを頂いた。また、同教会の西山百合香さんのフルートと白石多美出氏のギターのデュエット演奏に酔い、しめくくりは武藏あばれ太鼓に総毛立つ感動を共にした。与えられた全てに心から感謝。

九日 町内東婦人会（会長籠宮まさ子氏）五回目になる例年の多額のご寄付を。感謝。

十日 北浦和の鈴木さんより果物を、久喜の大隈さんより日用品を。ありがとう！

十一月三日 小学校日曜参観。

十四日 幼稚園作品展。

十九日 栗原忠氏より美味しいお肉とお米を沢山。感謝。

二十日 来年度就学児検診三名。・川口教会牧師ご夫妻来訪。

二三日 青山学院大学生見学に。女子聖学院短大生、学習ボランティアの申し入れに来訪。

・埼玉地区C・S生徒大会参加。

・おめでとうございます。お支えを感謝し、今年も子どもたちに負けない様に励みます。よろしくお願ひします。倉沢智子

二六日 岩槻教会より来訪して収穫感謝のお励ましを。

二七日 所沢市児童民生委員の方々来訪してお励まし。感謝。

二八日 松栢堂より沢山の品を。一二月一日 町内の大湧氏より。先祖伝來の杵。ありがとうございます。

二日 今年もハーブの東海林さんがフルートの山野さんとアドヴェントイヴコンサートをデュエットで。素敵な一夕。

三日 ドアのリースと食堂のクリスマスに子どもの瞳が輝いて第一アドヴェント。夕礼拝と楽しい夕食会。

五四日 国際婦人福祉協会のお招

きで英國大使館へ。八十名ほどの各国の大公使のご婦人方にミユージカル風の聖誕劇を主役の入野君と落合さんのヨセフ、マリアもみんなとても立派にできました。素敵なお品さとお食事とお土産も。たくさん楽しい一日でした。

反射光

謹賀新年。五年

目のお正月をこんなに穏やかに迎えられるなど夢のようです☆お支えの故と思いつつ更に自己戒しながら歩みます☆新年の本紙の表を飾る写真をとアルバムを繰っていましたら設立当初の写真に時を忘れました☆赤ちゃんの顔が腕白坊主に重なり一種不思議な感覚でした☆裸ノ坊のようだつた家も今では木や花が季節の色で飾り鳥や虫も住処にしています☆こんなに豊かになつているのに自分たちが求めたり創つたものは殆どありません。与えられたことの何と多いことか、ふざわしい働きこそその思いに満たされます☆クリスマスには来ててくれ、年に二~三回しか会えない子どもの父親がその直前建築現場で大怪我をして入院し、事故直後苦しい息で人を頼み連絡してきました。私たちのところにいる子どものことではなく家にいる姉のことを頼むと、不運はどうしてこんなに片寄るのでしょうか☆不運や不幸を最初に知らされるその人々の家族のような働きを今年も! (哲)